

平成24年度三沢市商工会青年部部長所信

平成24年度三沢市商工会青年部
部長 新山 聖 将

平成24年度を新たな気持ちでスタートしながらも、昨年発生した「東日本大震災」は誰もが忘れることのできない災害を胸に踏み出すこととなります。今後の歴史においても、「震前、震後」と表現が分けられるほどの節目となり、その新たな一歩は希望の持てる一歩となるよう、災害の悲しみを乗り越え復旧・復興を日本全体で取り組むべき1年になると考えます。

商工会青年部として被災地に足を運び炊き出し等の活動をさせていただきました。その被災地の現状にはただただ言葉を失うも、身近な人と人とのつながりがいかに大切か、また励まし応援することの大切さを身をもって知ることができました。

そうした経験から今年度「友より学ぶ」をスローガンと致しました。あらためてお互いを理解し、励まし合う事の大切さを青年部活動の中で探求して行きます。

また、今自分たちの世代が若さ溢れる力で地域社会に活力と元気を世代の壁を乗り越え共有し、地域に笑顔が溢れる活動となるよう邁進致します。

活動に際し、「総務・研修委員会」と「地域密着委員会」を立ち上げました。まず総務・研修委員会においては、各部員が共通の認識と向上を目指した意見をまとめ反映できる総会等の開催と運営に努めます。新たに研修事業を開催し部員間の意見交換と長引く景気低迷を打破すべく社会人としての知識の向上を目指します。

次に地域密着委員会において、三沢市内外における様々なイベントへ積極的に協力し参加者が地元や参加したイベントを好きになっていただけるよう努めます。様々なイベントでお声を掛けていただけるようになった「バラ焼きドック・バラ焼きそば」を今年も継続し、各イベントへ提供と三沢市の地元食材の宣伝に努めます。また、挨拶運動を開催しより良い地域社会の基本となる挨拶の和を広げます。こうした活動をホームページを通じ広くPRし、部員拡大へとつなげていきたいと考えております。

結びに、「あれから1年」という記事や番組を多く拝読、拝聴しました。まず、あの悲しい出来事を忘れてはならないということ。そして生かされている今日に感謝し、自分たちにしか出来なことを精一杯やるしかないのだということ。これ以上のことを言葉にできずにいます。しかし、前に歩まなければなりません。

地域の尖兵として青年が青年らしく夢と希望をもち、友より学びお互いを認め高められる仲間として青年部活動に取り組みたいと考えております。